富士箱根伊豆国立公園 船津給油施設



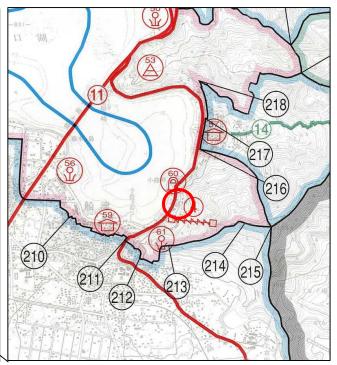
区域面積 : 0.1ha

第2特別地域

●位置図

西桂町 富士河口湖町 富士吉田市 忍野村 鳴沢村

●公園計画図



○当該地は河口湖の南東岸の湖畔、甲府船津線道路の沿線で、周辺には旅館や売店が多く 建ち並び、河口湖を訪れた観光客の宿泊や散策などに利用されている。

廃止理由

- ○本給油施設は、昭和32年の船津自動車運輸施設として事業決定され、平成8年 の公園計画変更の際に船津給油施設として整理された。
- ○隣接する普通地域内に整備されている給油施設が多数あることから、本地域内 に給油施設を新たに整備する必要性がなくなったため廃止する。
- ※公園計画の変更に合わせた事業の廃止

自然環境への影響

- ○本事業による既存施設等はなく、したがって廃止による施設の撤去等の工事も 発生しない。
- ○よって風致景観や希少動植物への影響はない。

南アルプス国立公園 神なみませる 中御室宿舎



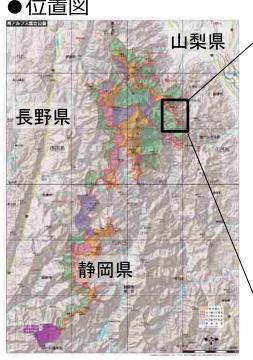
区域面積: 0.04ha

最大宿泊者数:70人/日

執行者(予定者):民間

第3種特別地域(民有地)

●位置図



●公園計画図







- ○本事業地は薬師岳と辻山間の鞍部に位置する。周囲は樹林帯に覆われている。
- (地蔵岳、観音岳、薬師岳)と夜叉神峠を結ぶ尾根、駒・鳳凰山系縦 走線(歩道)の近傍に位置し、登山時の休憩拠点となる。



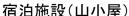
- ○事業地周辺の主な利用形態は、夜叉神峠~鳳凰三山の登山縦走が主である
- ○正確な利用者数は不明だが、利用の多い北部地域の中では比較的少ない
- ○南御室小屋の年間宿泊者数は2,150人程度。4~11月には管理人が常駐し、 冬期には無人小屋として利用される。
- ○昭和39年の公園計画策定以降、既存工作物として取り扱われてきたが、 公園事業として執行する調整がついたことから、事業決定を行うもの。

既存施設の把握(山小屋、冬期小屋、トイレ等)

執行予定者:民間

◆ 公園を安全かつ快適に利用する上で重要な宿泊施設(山小屋)、冬期小屋、トイレ等が整備されている(民間事業者)







冬期小屋



トイレ

風致・自然環境への影響

- ○事業地は樹林帯の中に位置し、周辺の展望地からは望見されない。
- ○既存施設の把握であり、新たな工事を伴わないことから、自然環境への影響はない。
- ○トイレの処理方式は土壌処理※(簡易水洗)と汲み取りであり、環境への影響は最小限
- ※土壌粒子による吸着、土壌微生物の代謝作用。処理水は浄化水として循環



上信越高原国立公園

決定

区域面積:18.5km

執行者(予定者):みなかみ町

たにがわあさひ じゅうそうせん どうろ 谷川朝日縦走線道路(歩道)

群馬県、湯沢町

特別保護地区、第1、2種特別地域、普通地域(国有地)

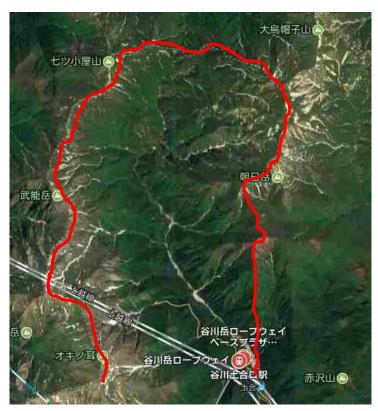






- ○谷川連峰東面の馬蹄形の路線で、湯桧曽川沿いに連なる山々の稜線を結ぶ路線である。
- ○主に土合口を基点に周回できる路線として利用されている。

谷川朝日縦走線道路(歩道) 決定区域図



事業規模 区域面積:18.5km



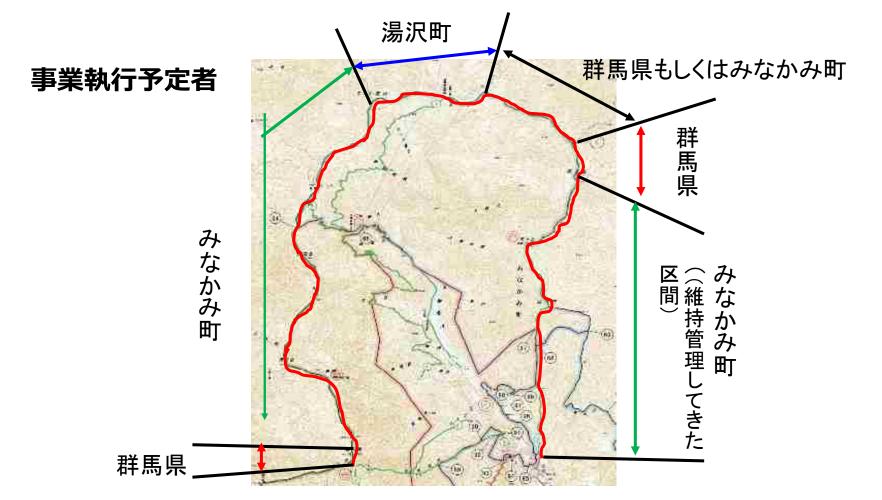


- ○谷川朝日縦走線道路(歩道)として計画されている全区間を決定するもの。
- ○ぐんま県境稜線トレイルとして位置づけるに当たり、地元自治体が事業執行する。
- ○群馬県が当該区間を含めた土合〜鳥居峠までの約100kmを「ぐんま県境稜線トレイル」として位置づける予定。

既存施設の把握(歩道)

執行者(予定者): みなかみ町、群馬 県、湯沢町

- ◆ 公園を安全かつ快適に利用するため谷川朝日縦走線道路(歩道)事業として、 既存の歩道を把握するもの。新たな整備等の予定はない。
- 地元自治体が土地の貸借及び維持管理を適切に行う予定。





武能岳から朝日岳、白毛門方面

自然環境への影響

当該路線場には、ホソバウスユキソウなどの 希少植物も点在するが、歩道も明確であり、 地元自治体により適切に管理されることから 景観に与える影響は小さい。



上信越高原国立公園

よもぎとうげせんどうろ

蓬峠線道路(歩道)



区域面積: 0.7km

執行者(予定者):湯沢町

特別地域(国有地)

●位置図

●公園計画図









- ○谷川連峰東面に位置する谷川朝日縦走線道路(歩道)への新潟県側からの主要なアクセス道。
- ○主に土樽と土合を結ぶ路線として利用されている。

蓬峠線道路(歩道) 決定区域図



事業規模

区域面積: 0.7km





- 谷川朝日縦走線 道路(歩道)
- ○蓬峠線道路(歩道)として計画されている全区間を決定するもの。
- ○湯沢町やみなかみ町などで構成している雪国観光圏が当該区間を含めた 280kmを「スノーカントリートレイル」として位置づける予定。
- ○スノーカントリートレイルとして位置づけるに当たり、地元自治体が国有林 を借地し、事業執行する予定。

既存施設の把握(歩道)

執行者(予定者):

湯沢町

● 蓬峠線道路(歩道)事業として、公園を安全かつ快適に利用するために維持管理されている。



蓬峠付近から土樽方面

自然環境への影響

当該路線周辺は、ササで覆われ、道ばたには ウメバチソウなどが点在するが、歩道も明確であり、 地元自治体により適切に管理されることから 風致に与える影響は小さい。



上信越高原国立公園

しげくらだけせん どうろ

茂倉岳線道路(歩道)



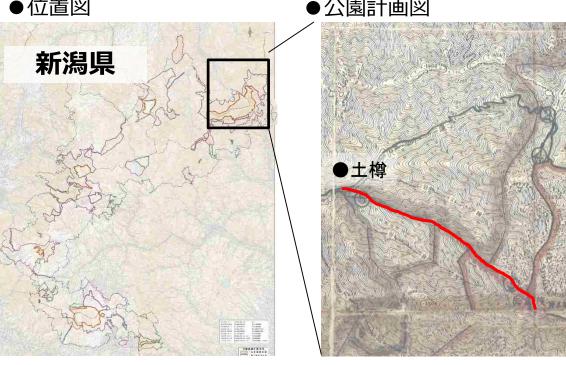
区域面積:3.4km

執行者(予定者):湯沢町

特別地域(国有地)

●位置図

●公園計画図

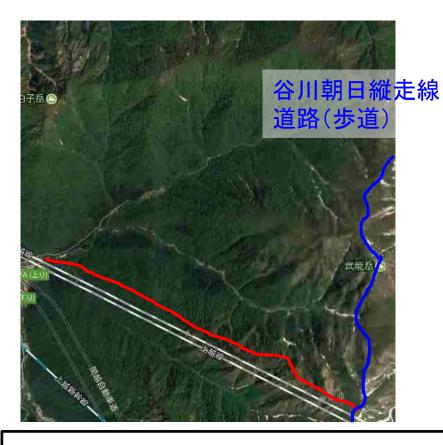






- ○谷川連峰東面の谷川朝日縦走線道路(歩道)への、新潟県側からの主要なアクセ ス道の一つ。
- ○茂倉岳への日帰りルートとしても利用されている。

決定区域図



事業規模 区域面積:3.4km



- ○茂倉岳線道路(歩道)として計画されている全区間を決定するもの。
- ○湯沢町内の他の主要登山道は、スノーカントリートレイルやぐんま県境稜線トレイルとして位置づけられ公園事業として執行する予定で、当該路線も併せて国有林を借地し事業執行する予定。
- ○歩道に隣接する避難小屋は、新潟県が事業執行し、湯沢町が管理している。

既存施設の把握(歩道)

執行者(予定者):

湯沢町

● 茂倉岳線道路(歩道)事業として、公園を安全かつ快適に利用するために維持管理されている。







自然環境への影響

当該路線周辺は、稜線部では主にササで覆われ、樹林帯では、主にブナ林となっている。歩道も明確であり、地元自治体により適切に管理されることから風致に与える影響は小さい。

上信越高原国立公園

にれいすがだいらせん どうろ

路線距離: 9.2km→11.0km

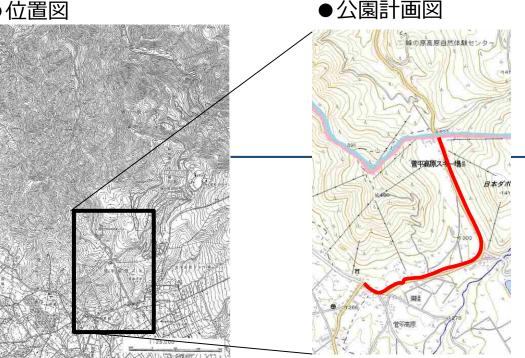
有効幅員:9.0km(変更なし)

執行者(予定者):長野県

仁礼菅平線道路(車道)

第2種特別地域(長野県有地、上田市有地、私有地)

●位置図

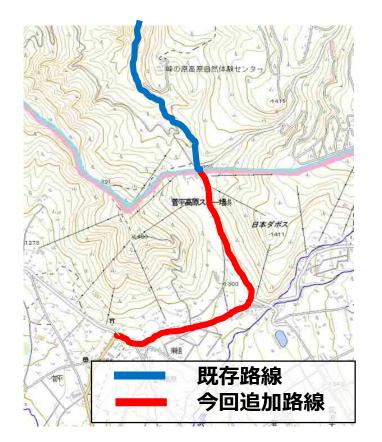






- ●仁礼菅平線道路(車道)は、上田市と須坂市をつなぐ道路である。
- ●平成28年の菅平高原への入込者数は約100万人であった。
- ●近年は周辺の山地斜面にスキー場、山麓では高原野菜耕作地の他、球技グラウンド、テニス コート等の運動施設の利用や宿泊利用が盛んに行われている。根子岳・四阿山への登山基地と なっており、高原避暑地としての利用も多い。

仁礼菅平線道路(車道)決定位置図



事業規模

路線距離:9.2km→11.0km

有効幅員:9.0m(変更なし)

今回追加路線の道路の様子







- ●当該車道事業は上田市街地から菅平に至る唯一の道路であり、利用者も多く 見られる状況である。
- ●道路の一部に歩道が設置されていない箇所があり、歩行者等にとって危険な 状況が見られる。そのため、公園利用者の安全確保のために歩道の新設を計 画しており、これに伴い、事業規模の変更を行うものである。

一部区間の改良

執行予定者:長野県

● 利用者の安全を確保するために東側2.5m程度道路を拡張し、片側に歩道を 新設予定。



歩道新設箇所 1km

道路東側に樹木が見られるが、これらの樹木の一部を伐 採予定(以下写真参照)







自然環境への影響

- ●工事に伴い、道路際のスギなどの樹木170本程度伐採予定だが、必要最小限の数であり、複列に並んだ樹林 帯となっているため、景観上の支障は少ない。
- ●盛土は当該工事の切土で発生する土砂の活用を予定しており、外来種の侵入予防策がとられている。
- ●転落防止策や車両防護柵は周囲に配慮した着色をする予定であるため、景観上の支障は少ない。

中部山岳国立公園 フサビ平宿舎



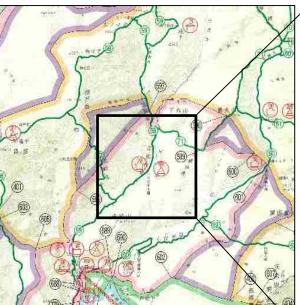
区域面積: 0.1ha→0.2ha

最大宿泊者数:100人/日→変更なし

執行者(予定者):民間

第2種特別地域(国有林)

●位置図



●公園計画図







- ワサビ平は樅沢岳を源流とする左俣谷の標高約1,400m付近に位置し、周囲はブナ林。
- 岐阜県側から北アルプスへの登山者数は増加傾向にあり平成28年は約5.4万人と過去最高。
- ワサビ平宿舎のある左俣林道は、北アルプスへの登山拠点となる新穂高から笠ヶ岳・双六岳のほか奥黒部方面へと向かうメインルートであり通過利用者も非常に多い。_

44

ワサビ平宿舎変更位置図



事業規模

区域面積: 0.1ha→0.2ha

最大宿泊者数:

100人/日→変更なし



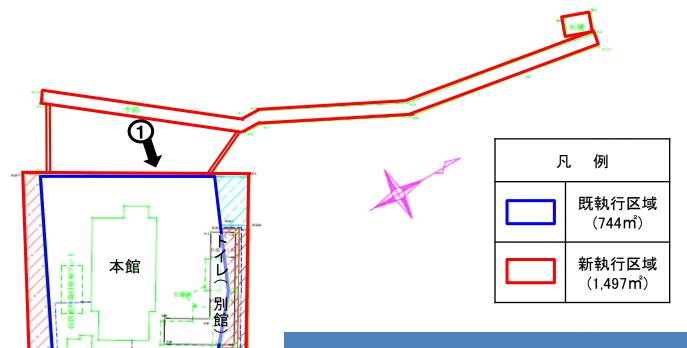
- トイレが足りないという登山者からの苦情や地元自治体からの要請に応え、 民間事業者が山岳環境保全対策支援事業を活用し、通過利用者も使用できるトイレを整備する。
- トイレ整備に伴い合併処理浄化槽等もするため事業敷地の拡張が必要。

合併浄化槽

トイレの整備

執行者:民間

- 本館の北側に別館を整備し、1階をトイレとして通過利用にも開放。
- 合併処理浄化槽を整備し、屎尿・雑排水を処理。





①トイレ(別館)整備予定地



2合併浄化槽整備予定地

自然環境への影響

- トイレ・合併浄化槽等の整備に伴い支障木の伐採が必要。しかし、その規模は小さく大径木もない。
- 合併処理浄化槽の設置によって排水処理能力の向上が 期待できる。

46

中部山岳国立公園 の以外のでは、これがいけ、きゅうけいじょ 乗鞍鶴ケ池休憩所



区域面積: 0.3ha

執行者(予定者):高山市

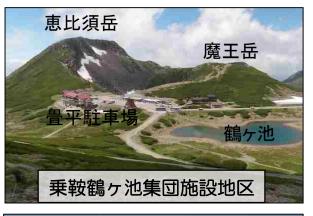
第2種特別地域(国有林)

●位置図

●公園計画図









- 乗鞍鶴ヶ池集団施設地区は南北に延びる複合火山である乗鞍岳のほぼ中央部に位置する。
- 乗鞍鶴ヶ池集団施設地区(畳平 標高2,702m)には、岐阜県側の乗鞍スカイライン又は長野県側の乗鞍エコーラインでアクセスでき、どちらもマイカー規制を実施中。
- 駐車場利用台数等から畳平への入り込み者数は、約14.5万人(平成29年)と推定される。

乗鞍鶴ケ池休憩所決定位置図



事業規模

区域面積: 0.3ha





- 鶴ヶ池西側に位置する畳平駐車場に隣接するバスターミナルが当該施設。
- 当該施設は高山市が乗鞍鶴ヶ池案内所として事業執行している。
- 乗鞍岳の利用が低迷するなか、施設所有者の高山市では、適正かつ快適な利用の 推進を図るため、乗鞍の拠点施設として老朽化と不便さが指摘されている畳平バ スターミナル内の機能と配置を見直し、全面リニューアルを行う計画。

既存施設の把握(リニューアル)

執行者(予定者):高山市

● 乗鞍岳の利用が低迷するなか、施設所有者の高山市では、適正かつ快適な利用の増進を図るため、乗鞍の拠点施設として老朽化と不便さが指摘されている畳平バスターミナル内の機能と配置を見直し、全面リニューアルを行う計画。



2階 乗客待合室



2階 軽食コーナー





3階 休憩



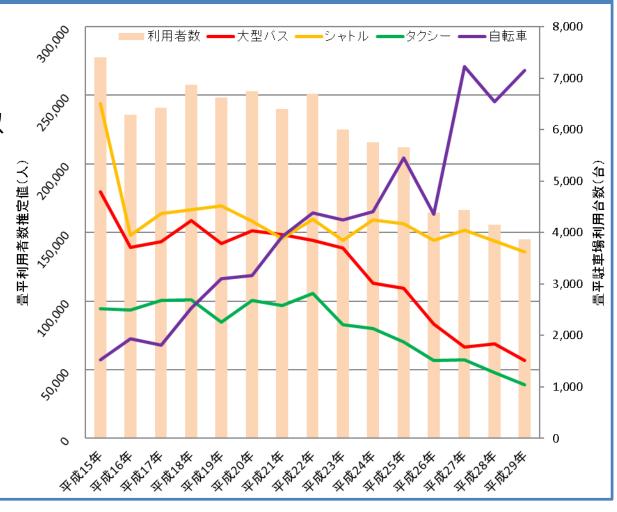
3階 食堂



1階 自然展示室

バスターミナルの現状について

- 乗鞍岳の入り込み者数はマイカー規制が開始された平成15年以降約25万人台で推移。しかし、平成23年以降は減少傾向に転じ、平成29年は過去最低の約14.5万人。
- 大型バスの減少が著しい。
- 団体旅行を想定して整備されたバスターミナルであるため、現在の利用者のニーズに応えられていない。
- 岐阜県が進める中部山岳国 立公園活性化プロジェクト においても有識者から施設 改善の指摘。



自然環境への影響

- 既存施設内部のリニューアルであるため周辺自然環境への影響はない。
- 当然ことながら外観も周辺の風致景観と調和したものになるよう指導する。

中部山岳国立公園 乗鞍鶴ケ池宿舎



区域面積:1ha→変更なし

最大宿泊者数:450人/日→385人/日

執行者(予定者):民間

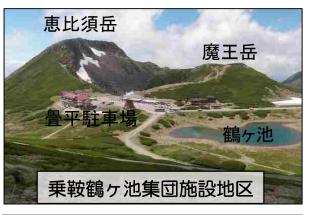
第2種特別地域(国有林)

●位置図

●公園計画図









- 乗鞍鶴ヶ池集団施設地区は南北に延びる複合火山である乗鞍岳のほぼ中央部に位置する。
- 乗鞍鶴ヶ池集団施設地区(畳平 標高2,702m)には、岐阜県側の乗鞍スカイライン又は長野県側の乗鞍エコーラインでアクセスでき、どちらもマイカー規制を実施中。
- 駐車場利用台数等から畳平への入り込み者数は、約万14.5人(平成29年)と推定される。

乗鞍鶴ケ池宿舎変更位置図



事業規模

区域面積:1ha→変更なし

最大宿泊者数:

450人/日→385人/日



- 鶴ヶ池西側に位置する畳平駐車場周辺に宿舎が存在する。
- 公園計画において当該地である乗鞍鶴ヶ池集団施設地区の整備方針は「宿泊施設は、…収容力は、原則として現状以下とする。」とされているため、野営場の決定(新設)に伴い、野営場の最大宿泊者数(65人/日)分を宿舎の最大宿泊者数から削減するもの。

既存施設の把握

執行者(予定者):民間

● 現在、2軒の宿舎が執行中。

● 今回の変更に伴う工事は予定されてない。

※ 最大宿泊者数

銀嶺荘 50人/日

白雲荘 80人/日



銀嶺荘

吉野熊野国立公園

田戸宿舎



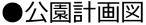
区域面積: 0.1ha

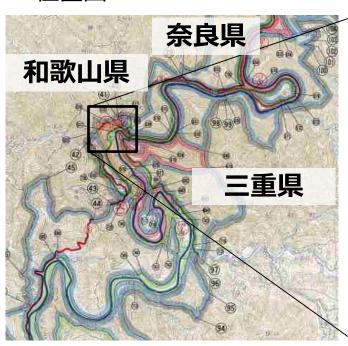
最大宿泊者数:50人/日

執行予定者:民間

第2種特別地域(民有地)

●位置図



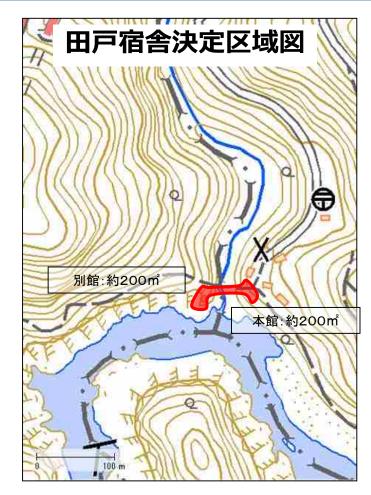








- ○北山川の中流域に位置し、奈良県、和歌山県にまたがる。
- ○瀞ホテルから望む瀞八丁の景観は国指定天然記念物特別名勝に指定されている。 また、大正9年(1920年)に建設された瀞ホテル本館は、平成28年に奈良 県有形文化財(建造物)に指定された。



事業規模

区域面積: 0.1ha

最大宿泊者数:50人/日





- ○瀞峡探勝や近畿自然歩道(筏師の道)の宿泊拠点、休憩地として利用。
- ○駐車場やジェット船など、瀞峡の快適な利用に資する施設が整備されており、安全で快適な利用の増進及び自然保護思想の普及啓発が図られる。
- ○宿泊施設(本館)が平成28年に奈良県有形文化財に指定されたことで、瀞峡だけでなく当該宿舎自体の保全及び利用価値が高まっている。

既存施設の把握(本館、別館、吊り橋)

執行予定者:民間

- ●大正6年(1917年)に、木材運搬の担い手である筏師を宿泊させた「あづま屋」として創業し、本公園指定初期に瀞峡観光を支える観光旅館として株式会社 静ホテル(当時)により本館(大正9年・1920年)、別館(昭和2年・19 27年)が整備された。
- ●平成23年の紀伊半島大水害により、浴室、吊り橋などが被災しており、執行予 定者は復旧を企図している。復旧にともない既存施設の把握を行うものである。
- ●被災箇所の復旧については既存施設の範囲内で行う予定であり、管理運営計画 (熊野地域)の公園事業取扱方針に基づき指導する。





自然環境への影響

- ●外観が自然景観と調和している施設自体が奈良県の有形文化財に指定されており、奈良県文化財保護条例によって創業当初の意匠が保全される。よって復旧や改修に伴う風致景観への影響は小さい。
- ●既存の敷地内で改築する予定であるため、新たな地形の改変は伴わない

